

劇場空間は、子供の頃に見たプラネタリウムに似ている。渋谷にあった東急文化会館で、暗闇のなか、天井に映しだされた無数の星に驚き、興奮した記憶がある。

劇場へ行き、客席に座る。そこでパンフレットやチラシなどを眺めたり、観客の話を聞いたりしているうちに、ブザーが鳴り、まもなくの開演が告げられる。ゆっくりと客電が落ち、あたりは暗闇に包まれた後、するすると幕があがり、照明でまぶしい舞台が見えてくる。そのようにして芝居は始まる。

舞台は「過去」にも「現在」にも「未来」にも移動することが可能であり、あらゆる空間を現出させることができる宇宙だ。演劇は、俳優と観客のあいだだけで成立する瞬間の芸術である。同じ演目でも、見る日が変われば印象も変わる。昼の部と夜の部でもちがうし、けっして同じであることはない。そのように、俳優も観客も、一度限りの時空間をおたがいに共有するから面白いのだ。

1980年代に入って、東京、大阪、京都などで「小劇場ブーム」が巻き起こり、演劇がマスコミで取りあげられる機会が増えていった。それまでは汚い、暗い、マイナーなイメージだったアンガラ演劇、小劇場で活動していた学生劇団、演劇集団は、パワフルでスピード感があるところが時代の流行とも重なって人気を博し、一大ブームを巻き起こした。現在では、映画やテレビでも、アンガラ演劇、小劇場演劇出身者の活躍を数多く見ることができる。

その一方で、80年代から90年代にかけては、西武、東急など、大企業が運

営する劇場が数多く作られた。劇場の収容人員数が増えるのに伴い、有名なタレントや歌手を主役にしたスター・システムのプロデュース公演が多く作られるようになる。スター・システムで制作された公演のなかでも、徳川幸雄、井上ひさし、野田秀樹、つかこうへいといった演劇人と出会うことのできた俳優たちは、その魅力と輝きを増したように思う。そして、90年代後半からは、新国立劇場をはじめとするパブリックシアターが作られ、公共団体による主催公演の数も増えていった。

舞台写真家は、上演された舞台を写真で記録することが、第一の役割である。まず、舞台をできるだけ主観を交えず、記録することに徹して撮る。そのうえで、次に自分の視点から、舞台を作品として撮る。このふたつの作業が、わたしの舞台撮影における両輪となっている。

いまから44年前、わたしを演劇に出会わせてくれたのは、作家の井上ひさしさんだが、いつも井上さんは「劇場にはユートピアがある」と言っていた。演劇は、見た人の心の中に存在する。

舞台写真を見てもらえば、かつてその舞台を見た人々は、劇場の暗闇で共有した時間の記憶を呼び起こしてくれるだろう。舞台を見ていない人も、そこに流れている空気を感じてくれるはずだ。なぜなら舞台写真は、わたしがその舞台を客席で受けとめた記録でもあるからだ。そのようにして、舞台写真が、舞台に携わるすべての人々が魔法のように創りだす、魅力あふれる劇場の宇宙への案内となることを願う。

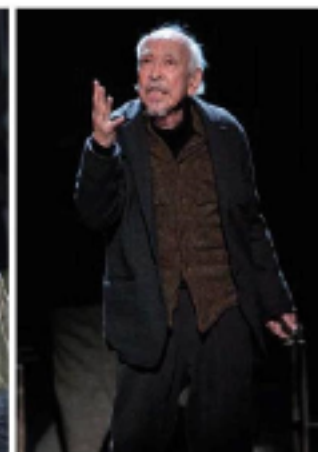
谷古宇正彦



権川幸・石高三郎「ポンペイを陥らぬ女」2011年



佐藤日出「ヘンリー四世」2016年



大滝秀治「俳優」2010年



橋本祐一・橋本寿生「俳優」2017年

谷古宇正彦



- 1947年 東京都に生まれる。
- 1970年 多摩芸術学園写真科中退。在学中から、写真家齋藤廉一、土海宏、藤川清氏の共同事務所スタジオA2に出入りする。斎藤氏が撮った人物写真に惚れる。
- 1972年 フリーカメラマンになり、藝文誌、文藝誌のグラビアページを担当。
- 1973年 文藝誌の取材で、作家・井上ひさし氏と出会う。
- 1980年 演劇専門誌「新劇」(白水社)で、「FACE」を連載(8年かけて約80人を紹介)。
- 1981年 銀座キヤノンサロンで、初めての個展「井上ひさし点描」。
- 2009年 演出家・木村光一主宰、地人会公演、2007年までの全作品。
- 1982年 「井上ひさしの世界」(白水社)人物・舞台写真。「清水邦夫の世界」(白水社)人物・舞台写真。小沢昭一主宰、劇団しゃぼん玉座公演、井上ひさし作品3作。
- 1983年 井上ひさし作「化粧」(集英社)舞台写真。風間社夫写真集「僕が愛した呪い」(双葉社)加藤健一事務所公演、2006年までの全作品。

- 1984年 三田村邦彦写真集「僕のそばに…」(学習研究社)井上ひさし主宰、こまつ座の旗揚げに参加。劇団こまつ座公演、現在までの全作品。
- 1985年 「ザテレビジョン」(角川書店)で1999年まで演劇ページを連載(14年かけて約630の舞台を紹介)。
- 1986年 劇団青い鳥の世界「なかつし脚本」(白水社)人物・舞台写真。
- 1987年 銀座セゾン劇場公演、オープンから2012年までの全作品。
- 1988年 東京グローブ座公演、オープンから1996年までの全作品。
- 1990年 「風間社大舞台写真集」(双葉社)
- 1992年 アートスフィア公演、オープンから2005年までの全作品。
- 1997年 新国立劇場主催公演、オープンから現在までの全作品。
- 1998年 新宿紀伊國屋西館で個展「演劇人」季刊誌「劇の宇宙」で2006年まで関西演劇人のグラビアを連載(2年同休刊)。大阪府可成ミュージアムスクエアで個展「演劇人図鑑」。
- 1999年 福岡西鉄ホールオープン記念写真展「舞台人図鑑」写真集「PLAYERS 1985-1999 光の記憶—影の記録」(角川書店)
- 2000年 大阪市立美術館創造館オープン記念写真展「舞台人図鑑」。
- 2001年 新宿紀伊國屋西館で個展「舞台人図鑑」。
- 2008年 井上ひさし作「ロマンス」舞台写真。
- 2009年 北九州芸術劇場で個展「写真から見る演劇」。
- 2011年 新宿紀伊國屋西館で個展「演劇・大滝秀治」。
- 2013年 鶴の園とははし芸術劇場の柱石とし公演「父よ」同劇場の情報誌「プラットニュース」を連載。大滝秀治・谷古宇正彦著「大滝秀治写真集 長生きは三言文の得」(集英社クリエイティブ)季刊誌「kotoba」(集英社)で「演劇人タイムカプセル」を連載(2年で8人を紹介)。
- 2014年 上田市交流文化芸術センター特選とし公演「真田風雲録」。
- 2015年

谷古宇正彦氏によるギャラリートーク

2017年8月20日[日] 14:00~15:30



【福島テルサ:交通案内】 ●JR福島駅より徒歩10分 ●福島西ICより車で20分 ●福島飯坂ICより車で15分 〒960-8101福島市上町4-25 TEL:024(521)1500